

【基本構想】

第1章 計画の全体像	19
第2章 まちづくりの基本理念	20
第3章 まちづくりの将来像と目標	21
1 まちづくりの将来像	21
2 まちづくりの目標	21
第4章 将来人口と土地利用	22
1 将来人口	22
2 土地利用	23
第5章 施策の大綱	25

第1章 計画の全体像

第5次芝山町総合計画の全体像は以下のとおりです。

基本理念

「次世代が誇れる芝山」創生への始動

将来像

まち・子育て・仕事・暮らし
充実と希望が生まれる国際空港町・芝山^{タウン}

まちづくりの目標

ハード・ソフトの
一体的な整備により
持続可能な成長を
実現するまち

仕事と子育てがしやすい
ワークライフバランス
のとれたまち

町民との協働により
芝山町の誇りと希望
を未来につなぐまち

施策の大綱

1 安全・安心で快適なまちづくり

まち

都市基盤整備、道路、公共交通、自然環境、生活環境（上下水道など）、消防・防災、交通安全 など

2 未来を支える人材を育てるまちづくり

子育て

家族形成、子育て、教育、生涯学習、文化・スポーツ など

3 芝山らしく空港を生かしたまちづくり

仕事

農林業、商工業、観光、高規格道路・広域連携道路 など

4 互いを尊重し支え合うまちづくり

暮らし

健康・医療、高齢者福祉、地域福祉、障がい者（児）福祉、社会保障、共生社会 など

5 協働し成長するまちづくり

行財政

協働の推進、行財政運営、広域連携 など

第2章 まちづくりの基本理念

第5次芝山町総合計画基本構想における、計画の基本理念を次のように定めます。

「次世代が誇れる芝山」創生への始動

インターネットの普及が私たちの暮らしを大きく変えたように、成田空港の更なる機能強化は、芝山町のポテンシャルを飛躍的に向上させることが期待されます。

現在の芝山町は、隣接自治体と比べれば商業施設や宿泊施設などで脆弱な面がありますが、空港の機能強化に伴う新しいインフラ整備、圏央道の整備による“人”と“モノ”の交流、さらには豊かな自然や農産物など、これらを活かせば、10年、20年後の芝山町は大きな発展を遂げているはずです。

空港の機能強化は、メリットだけでなく騒音などのデメリットももたらしませんが、騒音対策を拡充し、芝山創生の大きな柱としてとらえることで、人口減少・高齢化社会に対峙したコンパクトで機能的なまちづくりに取り組みます。

守り続けた風土や文化、産業を継承し、住む人が誇れる新しい芝山町を町民の視点に立ち、実現します。

第3章 まちづくりの将来像と目標

第5次芝山町総合計画基本構想において、計画の目標年度までに目指す「まちづくりの将来像」と、将来像の実現のために取り組む「まちづくりの目標」を次のように定めます。

1 まちづくりの将来像

まち・子育て・仕事・暮らし
充実と希望が生まれる国際空港^{タウン}町・芝山

2 まちづくりの目標

- ハード・ソフトの一体的な整備により持続可能な成長を実現するまち
- 仕事と子育てがしやすいワークライフバランスのとれたまち
- 町民との協働により芝山町の誇りと希望を未来につなぐまち

これまで本町では「活力ある 緑の大地と空がふれあうまち・芝山」を将来像として、「一体となり連携を重視したまちづくり」「子育てを応援し、豊かに生活でき、高齢者が元気なまちづくり」「農業を起点とした食のまちづくり」を目指してきました。

今後、成田空港の第3滑走路（C滑走路）運用開始による空港の更なる機能強化が図られることから、例えば空港で働き芝山に暮らすという住勤隣接を実現し、豊かな自然環境の中でワークライフバランスのとれた子育てを実現します。

また、圏央道をはじめ、道路や施設の整備を進め、町内に進出する数多くの企業からの税収などを財源に「町民の暮らし」が一層の充実したものとしていきます。

多様なニーズに対して、分かりやすく、満足度の高い行政サービスを将来にわたって持続的に提供し、住むことに誇りと希望を持ち暮らせるまち、国際空港タウンを実現します。

第4章 将来人口と土地利用

1 将来人口

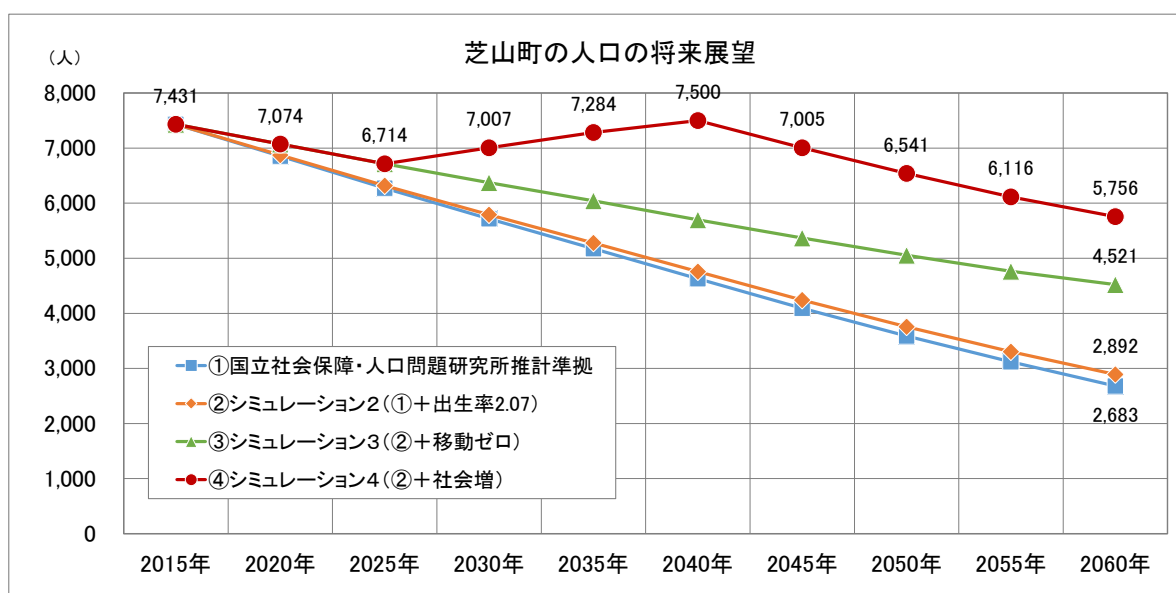
令和12年（2030年）の将来人口の目標 7,000人以上

本町における人口減少傾向は今後も進行し、このままでは、地域経済の縮小、社会保障の負担増などの多くの弊害の発生、本町の衰退につながる可能性も否定できません。人口減少に歯止めをかけるためには、一刻でも早く、出生率の向上と社会増減の均衡を図る必要があります。

こうしたことから、令和2年（2020年）3月策定の「芝山町人口ビジョン（改訂版）及び第2次芝山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、安定した就労や結婚・出産・子育てなどの若い世代の希望をかなえることで出生率の向上を図るとともに、新たな「しごと」の創出や地域資源を生かした魅力あるまちづくりによって、これまで東京圏へ流出していた人々を呼び戻し、同時に人口の流出を抑制し、人口の社会増減を均衡させることで、人口減少に大きなブレーキをかけることを目指します。

本町においては、成田空港の更なる機能強化や圏央道の整備に伴う新たな定住も期待されることから、人口確保に向けた一体的な取組を実施し人口増に繋げていくことで、令和22年（2040年）に人口7,500人を確保するとともに、令和42年（2060年）に5,700人を維持する見込としています。

こうしたことを踏まえ、本計画では目標年次の2030年における将来人口を7,000人以上と定めます。



出典：芝山町人口ビジョン（改訂版）

2 土地利用

将来の土地利用については、拠点となる市街地や産業用地、郊外集落などの都市的土地利用の維持・充実や新規誘導に係る方針とともに、農地や里山などの自然的土地利用の保全・活用の方針を踏まえ、以下のように位置付けます。

①拠点

中心拠点	○芝山町の居住・文化・交流・行政・業務の中心となる市街地です。 ○住民の生活利便性の向上に資する都市機能の誘導を図るとともに、移転対象者や新規規定住者のための居住地整備などを推進し、密度の高い市街地形成を目指します。
スカイゲート拠点	○成田空港への近接性や鉄道駅を有する特性を活かし、成田空港南側の玄関口にふさわしい高次元の都市機能の誘導を図る市街地です。 ○新たなにぎわいの創出や、雇用の場の確保に資する土地利用誘導を目指します。
田園型居住地創出拠点	○良好な営農環境を有するとともに、成田市の市街地に隣接し、比較的高い生活利便性を有するエリアです。 ○優良農地を保全しながら「農ある暮らし」を実現する田園型居住地の新しいモデルを創出します。
観光交流拠点	○スカイパークしばやま、芝山仁王尊、芝山公園をはじめとする既存の地域資源の活用や、圏央道 IC 周辺での新たな地域振興施設の創出など、町内外からの利用を見据えた広域的な拠点として、観光交流機能の充実を図ります。

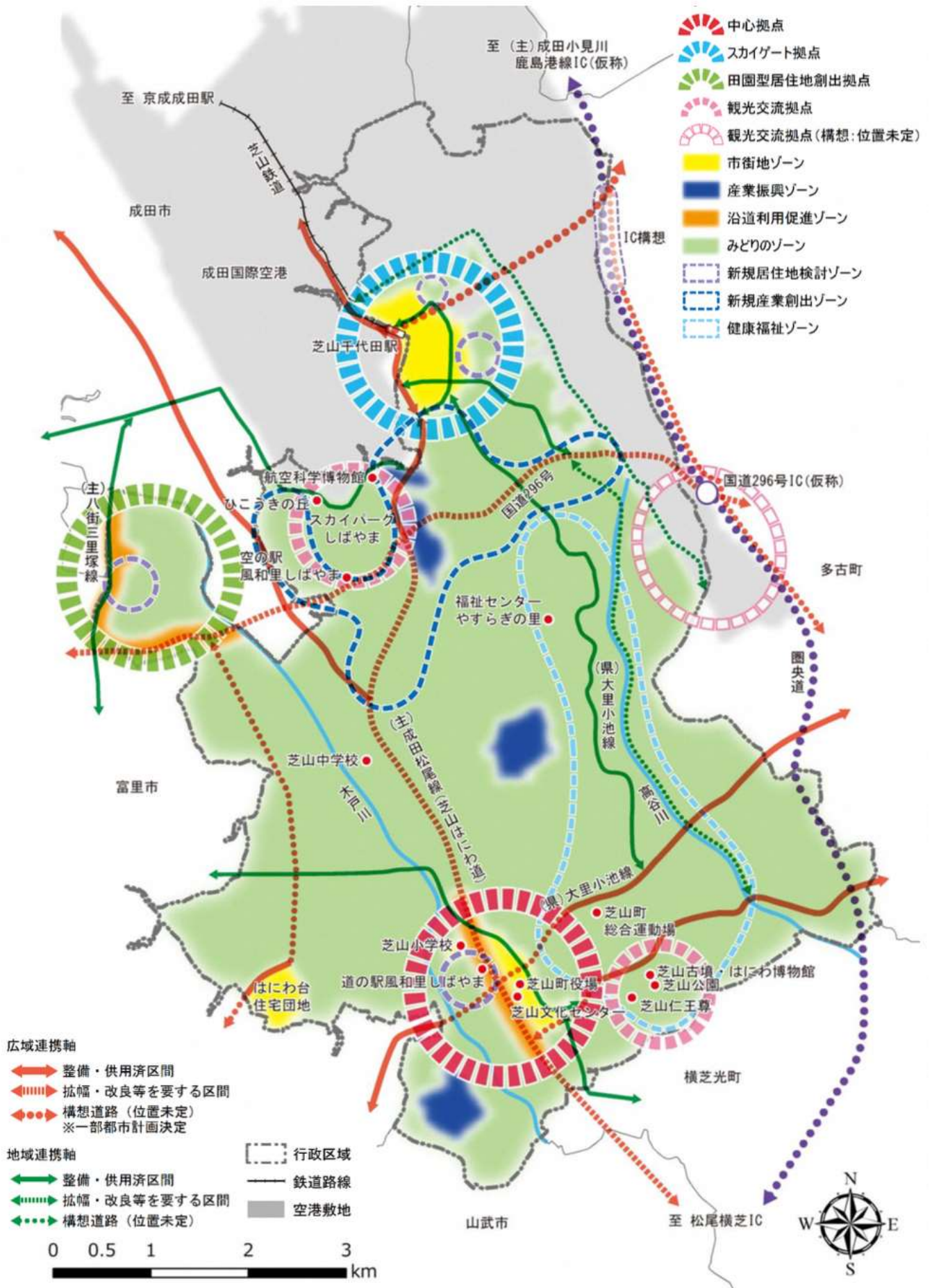
②都市軸

広域連携軸	○本町と周辺都市を結ぶ道路網で、人とモノの移動を支え、町の発展に繋がる広域的な連携軸です。
地域連携軸	○広域連携軸を補完するとともに、町内の各拠点を結ぶ道路網です。

③ゾーン

市街地ゾーン	○居住と生活サービスが混在する、複合的な市街地です。 ○既存機能の維持・充実を図るとともに、新規居住地の整備や空き家などの活用、にぎわい創出に資する新たな土地利用の誘導など、市街地の“質”と“密度”の向上に向けた取組みを図ります。
産業振興ゾーン	○成田空港への近接性を活かした工業・物流企業などが立地する産業系市街地です。 ○操業環境の維持と更なる充実を図ります。
沿道利用促進ゾーン	○広域連携軸となる国道 296 号、主要地方道成田松尾線(芝山はにわ道)の沿道を中心に、住民や道路利用者の利便性を支える、沿道型サービス施設などの立地誘導を促進します。
みどりのゾーン	○本町の農業を支える農地や河川・丘陵地などの自然環境、郊外に点在する既存集落や住宅地によって構成されたゾーンです。 ○既存集落などの維持・活性化と営農・自然環境の保全・活用を図りながら、人と環境の共生を図ります。
新規居住地検討ゾーン	○周辺環境や既存ストックに配慮しながら、空港拡張に伴う移転対象者のための居住地や、増加が見込まれる空港従業者の定住の受け皿となる居住地など、人口の確保に資する新規居住地の創出を検討・推進します。
新規産業創出ゾーン	○広域連携軸となる国道 296 号、主要地方道成田松尾線(芝山はにわ道)の沿道を中心に、成田空港と圏央道 IC への近接性を活かした、新たな産業系土地利用の計画的な誘導を図ります。
健康福祉ゾーン	○福祉センターをはじめ、デイサービスや特別養護老人ホームなどの高齢者用福祉施設や、芝山公園や総合運動場などの健康促進施設が立地したゾーンです。 ○既存施設の維持・充実や更なる健康増進に資する場の整備を推進し、高谷川周辺の美しい田園環境と一体となった健康福祉機能の強化を図ります。

■将来都市構造図



第5章 施策の大綱

まちづくりの将来像の実現と、それに向けた目標の推進に当たり、次の5本の施策の柱に沿って計画を進めます。

1 安全・安心で快適なまちづくり

ま ち 都市基盤整備、道路、公共交通、自然環境、生活環境（上下水道など）、消防・防災、交通安全 など

町内には、成田空港に隣接し交通などの利便性の高い暮らしもあれば、自然豊かな田園風景や里山に囲まれた暮らしなどの多様な居住環境があります。今後もこうした快適性に加え、災害などからの安全性も高め、安全・安心で快適なまちづくりを進めていく必要があります。

適切な土地利用を推進し、快適性や利便性を高める上下水道等の都市基盤や公園など、良好な居住環境の整備を進め、住みたくなるまちを整備・維持します。

道路や交通については、町道などの地域の生活を支える道路を整備するとともに、公共交通の利便性が向上し、利用しやすい公共交通ネットワークを構築します。

芝山町の田園風景や里山、水環境などの保全を図り、ごみの減量化などの環境に配慮した暮らしを推進するとともに、空港に隣接する町として騒音対策を充実するなど、自然と共生しながら快適な生活環境を構築します。

災害や事故、犯罪などから町民の命を守るため、防災や消防、救急体制を充実していくとともに、交通安全や防犯体制などを整備し、安全・安心なまちづくりを進めます。

2 未来を支える人材を育てるまちづくり

子育て 家族形成、子育て、教育、生涯学習、文化・スポーツ など

我が国の令和元年（2019年）の出生数は過去最少となり、合計特殊出生率は1.36となっています。芝山町においても少子化は深刻であり、令和2年（2020年）3月策定の「芝山町人口ビジョン改訂版及び第2次芝山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、移住・定住を促進するとともに合計特殊出生率を人口置換水準の2.07に引き上げることを掲げており、今後は子育て支援や教育、文化などを通じて、未来を支える人材を育てるまちづくりを進めていきます。

子育て世代については、相談体制の充実や保育など様々な子育て支援を実施するとともに、生活に困窮する世帯に対して経済的負担の軽減を図るなど、子育てしやすい環境をつくります。また、芝山町で結婚、出産、子育てを始める世帯を応援します。

町の教育行政については、「芝山町教育大綱」に掲げる「子どもたちの教育環境の向上」、「生涯を通じた学習活動の推進」、「文化・スポーツ活動の推進」、「共生社会の推進」の4つの方針に沿って、各施策の充実に努めています。

学校教育では、時代の要請に対応した教育内容の充実や教育関連施設の整備を進め、子どもたちの生きる力を育む教育を推進します。

町民の誰もが生涯に渡って、いつでも希望する学習やスポーツなどの活動ができるよう、学習内容や活動の推進、施設などの環境整備など、生涯学習や生涯スポーツを楽しめる環境づくりを進めます。

町民が芸術・文化に気軽に親しめる環境を整備するとともに、町の歴史や伝統芸能などを保存・育成・活用するなど、地域の大切な文化を守り育み、次世代に継承していきます。

3 芝山らしく空港を生かしたまちづくり

仕事 農林業、商工業、観光、高規格道路・広域連携道路 など

芝山町は成田空港に隣接し、新空港自動車道成田 IC をはじめ、東関東自動車道富里 IC や圏央道松尾横芝 IC から至近距離にあり、町内の3つの工業団地には多くの企業が進出しています。今後も町の活気や賑わいを創出していくために、芝山の立地特性である空港を生かしたまちづくりを進めていきます。

町の基幹産業である農業については、後継者不足や耕作放棄地の増加などの課題もありますが、温暖な気候と首都圏の大消費地に近接している立地の良さ、安全安心な作物を求める消費者の増加などを背景に、今後も引き続き農業生産体制を維持するとともに、里山や営農環境の保全などに取り組みながら、持続可能な農林業を振興します。

商工業について、経営基盤の強化や創業支援を行うとともに、雇用の維持・確保や新たな雇用の創出を促し、町全体の活性化を図ります。

日本を訪れる外国人観光客は近年大きく増加し、成田空港を利用する多くの旅行客が本町にも訪れています。令和2年（2020年）は世界的な感染症の流行のため渡航制限や旅行自粛という厳しい状況にありますが、今後有効な対策が取られ安全な旅行が再開されたのち、インバウンド（訪日旅行）の回復や国内旅行の盛り上がりにも備え、町内に観光客を迎え入れる環境整備を進めるとともに町の魅力を発見し発信するなど、観光の振興を図ります。

こうした人やモノの往来を支える大動脈として、圏央道をはじめとする国県道や成田空港の更なる機能強化に関連する道路など、産業を支える道路の整備を促進します。

4 互いを尊重し支え合うまちづくり

暮らし 健康・医療、高齢者福祉、地域福祉、障がい者（児）福祉、社会保障、共生社会 など

平成27年（2015年）の国勢調査によれば、本町の高齢者の割合は32.7%であり約3人に1人が高齢者です。誰もがいずれは年を重ね、医療や福祉などを利用する可能性があり、高齢者に限らず障がい者（児）や子育て世帯など、支援が必要な人を地域の様々な人や関係機関が連携して支援する「地域包括ケアシステム」の構築を目指した体制づくりが進められています。

今後はこうしたシステムが円滑に運用できるよう、町民が共に暮らす社会の一員として、お互いを尊重し支え合うまちづくりを進めていきます。

保健や医療については、一人ひとりの健康づくりや安全な地元産品を使った食育などを推進するとともに、感染症対策や疾病予防などの予防的体制といざという時の医療体制の充実により、町民の命を守る保健衛生・医療体制をつくります。

高齢者福祉については、高齢者の生活を支える様々な支援を充実するとともに、生きがいを推進し、高齢期になってもいつまでも生き生きと安心して暮らせる社会を作ります。

地域に暮らす誰もが共にかかわりあって共に生きる、地域共生社会の実現を目指し、地域の見守りや支え合いなどの地域福祉活動を推進するとともに、障がいのため、支援が必要な人への必要な支援の充実などにより、地域みんなで支え合う福祉を充実していきます。

経済的理由で生活に困窮する人に対する生活保護や自立支援を行うとともに、国民健康保険制度や後期高齢者医療制度、介護保険制度、国民年金制度の社会保障制度を適正に運用し、町民の暮らしを支えます。

5 協働し成長するまちづくり

行財政 協働の推進、行財政運営、広域連携 など

まちづくりの主役は町民です。多様化する町民ニーズや複雑化する地域課題に行政だけでは対応できない課題も多く、今後も町民や企業、周辺市町、県、国と連携し、それぞれの役割に応じた力を発揮し、協働し成長するまちづくりを進めていきます。

町の情報を町民と共有し、自治会（区）などの地域のコミュニティ活動を支援するなど、町民に対し開かれた町政であり、協働のまちづくりを推進します。

町は、健全な自治体経営に向けて、安定的な税収の確保と効率的な業務執行を行うとともに、町民にとって便利で満足度の高い行政サービスの提供に努め、効果的で効率的な行財政運営に取り組めます。

成田空港の更なる機能強化に伴う、利便性の向上などの波及効果が地域や町民に還元されるよう、成田空港周辺地域との連携を図るとともに、山武郡市広域行政組合による行政サービスを推進し、町民への効率的な行政サービス提供を進めていきます。

大綱5に掲げる取組は芝山町が行うあらゆる施策の推進に関連し、非常に重要なことから、大綱1から4のすべての施策においても「協働し成長する」観点を持った取組を進めます。

